

港湾振興便り



2025. 3
第214号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ —大寒波襲来、地球温暖化への警鐘—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- SEP 船「BLUE WIND」で地元小学生に向けた見学会を開催

(室蘭市 港湾部 港湾管理課)

- 首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました

(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)

- 四国クルーズ会議を初開催

(四国地方整備局 クルーズ振興・港湾物流企画室)

- 志布志港で「海の環境学習とアマモ苗付け」を開催しました！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

:

1 ポートエッセイ —大寒波襲来、地球温暖化への警鐘—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:

今年2月、暦の上では立春が過ぎた頃、日本列島に大寒波が到来した。新潟市においては、12時間降雪量が最大50センチと観測史上1位の大雪を記録した。气象台から新潟市に「顕著な大雪に関する気象情報」が発表され、降雪の強まりと夕方の帰宅ラッシュの時間帯が重なったことなどから、市内では交通障害も発生した。また、2月後半にも再び寒波が到来し、各地では記録的な大雪に見舞われることとなり、連日、住民の方が除排雪に追われる様子が新聞やテレビなどで取り上げられた。

近年、温暖化により年間を通じた降雪日数は少なくなる傾向であるが、短時間に降る雪の量は多くなっている。いわゆる「ドカ雪」である。これは地球温暖化の影響によって海面水温が上昇し、冬でも海からの水蒸気が大量に発生するようになったことが主な要因と言われている。さらに、かつては北極にとどまっていた寒気が分裂し偏西風の蛇行で日本付近まで南下しやすくなり、この寒気が海からの水蒸気を冷やして雪雲を発達させているという。今後もいつ「ドカ雪」に襲われるか分からない。温暖化の要因とされる二酸化炭素(CO2)の排出削減が急がれる。

アメリカ合衆国は1月にトランプ政権が誕生した。大統領の就任演説で米国産石油や天然ガスの採掘拡大を表明し、地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」から離脱する大統領令に署名した。一方で、先般、政府は「エネルギー基本計画」を改定、2040年度には再生可能エネルギーを最大電源に位置付け、脱炭素化を加速させるとした。新潟市では2050年度までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指し、その実現に向け「新潟市地球温暖化対策実行計画」を策定し取組を推進している。

エネルギー拠点として機能する新潟港でもカーボンニュートラルの取り組みはスタートしている。既に木質ペレットを燃料としたバイオマス発電は事業を開始した。また、洋上風力の再生可能エネルギーの供給拡大、港湾荷役機械のハイブリッド化、東港コンテナターミナルへの貨物鉄道直接乗り入れを目指すオン・ドック・レール構想等の検討を進めている。

温暖化を起因とした異常気象を経験、目の当たりにすることが多くなった今日、気候変動対策の取り組みは一層重要になっていると感じている。

:

2 トピック

*:

●SEP 船「BLUE WIND」で地元小学生に向けた見学会を開催

(室蘭市 港湾部 港湾管理課)

2月14日(金)、室蘭港を母港利用する SEP 船「BLUE WIND」で、市内の小学生66名を対象とした見学会を開催しました。本取組は「BLUE WIND」を所有する清水建設(株)の全面協力のもと実現しました。

見学会1週間前には、清水建設社員による事前授業を実施。SEP 船や洋上風力発電の説明を受けると、その規模の大きさに興味を持った子どもたちは「レグは何mまで伸ばせるの？」など積極的に質問し理解を深めていました。

見学会当日は全長65mのギャングウェイを渡り船内へ。操舵室に入り、操船やレグを上下するレバー、電子海図などの見慣れない設備に加えて、業務を行う船員の姿を間近に見た子どもたちは「船の操縦は難しい？」など次々に質問しており、船の仕事に興味津々でした。

岸壁では「BLUE WIND」に備わるメインクレーンのフックを見学。陸上に下ろされた巨大なメインフックに直接触れ「大きい」「かっこいい」と大興奮で、思い出に残る見学会となりました。

本港では昨年7月に、SEP 船「柏鶴」でも同様の取組みを行ったほか、寄港した練習船「青雲丸」でシップスクールも開催しました。今後も、市民から愛される室蘭港や洋上風力発電事業の啓発に向けた取組みを進めて参ります。



事前授業



メインフック見学の様子

●首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました

(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)

2月18日(火)、川崎港東扇島地区基幹的広域防災拠点(以下、「東扇島防災拠点」)において、首都直下地震を想定した管理運営訓練及びヘリコプター夜間離着陸訓練を実施しました。

本訓練は、首都直下地震発生時等に基幹的広域防災拠点としての災害対応能力向上を目的に例年行っているもので、今回は10機関等、約70名が参加し実施しました。

東扇島防災拠点を平常時に公園として管理する川崎市から、国の直轄管理へ移行するための要請を始め、関係機関との情報共有、情報収集等を行う管理運営訓練を行うとともに、ヘリコプターによる活動要員参集訓練、航空灯火・臨時駐機スポットの設置訓練、そして川崎市消防局による運航統制協力のもと、関係機関7機のヘリコプターが東扇島防災拠点において離着陸訓練を行いました。

今後も発災時において迅速に活動するため、関係機関との連携を深め、災害に備えた活動に取り組んでまいります。



管理運営訓練の様子



ヘリコプター離着陸訓練の様子

●四国クルーズ会議を初開催

(四国地方整備局 クルーズ振興・港湾物流企画室)

2月4日(火)、クルーズ船等の受入や持続可能なクルーズ振興を通じた地方創生を目指す取り組みとして、四国管内のクルーズ船誘致を担当する行政や観光団体が一堂に介する「四国クルーズ会議」を初開催しました。

会議では、港湾局産業港湾課からの基調講演に始まり、クルーズ船社等の招聘者の特別講演、ディスカッション及び意見交換会を実施しました。

招聘者による特別講演では、各社が取り組まれている現状と今後の展望等について紹介いただくとともに、ディスカッションでは、招聘者4名、四国4県代表者、港湾局、四国地方整備局が参加し、各県の取組や課題を共有したうえで、招聘者から様々な角度で指摘、助言をいただき、更なる寄港促進に向けて深掘りしました。

今後も四国地域の更なる活性化に向け、四国管内クルーズ関係者と連携し、継続して取り組みを進めていきます。



●志布志港で「海の環境学習とアマモ苗付け」を開催しました！

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

2月11日(火)、志布志港で「海の環境学習とアマモの苗付け」を開催し、約30名の市民が参加しました。

海の環境学習では、テーブルに置いた水槽の中のアマモと生き物を観察しながら、「志布志の海の生き物」や「アマモの役割」、「ブルーカーボン」などについて学びました。

アマモの苗付けでは、参加者・スタッフ全員でアマモの苗付けの準備を行い、その後、地元のダイバーたちが海に潜ってアマモの苗付けを行いました。このほか、「海の生き物観察会」や「ダイバー体験学習」を行いました。

参加した小学生からは、「アマモの生態を詳しく知ることができてよかった」、「生き物が好きなのでアマモも増えるといいなと思った」といった声がありました。

今後も、地域の方々と一緒にアマモを通じた海の環境学習やブルーカーボンの取り組みを継続し、みなとの環境の保全や港の脱炭素化に努めてまいります。



